令和２年度学校関係者評価

（令和３年２月 15 日 学校評議員会）

1 コロナ対応について

・コロナ対応で、児童生徒に感染者が出たときのマニュアルはあるのか。感染症対策を行うと共に感染を防ぐためにもどのように情報を出すのか、事前マニュアルを設定する必要がある。

・コロナ対策で授業参観がないということは、保護者にとってはとても大きなことである。子供たちの学校生活をオンラインでの授業公開など考えてみてもいいのでは。その際は、録画しないなどルールをきちんと決めておく必要があるだろうが。

2 教育課程について

・UDL（学びのユニバーサルデザイン） どのようにやっていくのか。いろんな情報を子どもにどう伝えていくのか課題である。それぞれの学部での取組があることは理解できたが、多様な子どもの実態に更に対応していく必要がある。UDL を学部間で共有し、掲示ひとつにしても、漢字やフリガナなどいろいろなバリエーションで見て分かるように伝える必要がある。

3 ICT推進について

・ICTに関して、ただ情報機器を使えばいいというのではなく、何のために情報機器を使うのか、情報を受け取ってどのようにそれを判断し、使うのかといったところまで考えてほしい。

4 進路について

・進路について、キャリヤ教育＝検定 ではないと思う。生活介護を利用する生徒も多いということから、その子が「よりよく生きる」ための進路指導、生き方やライフスタイルを考える進路指導もお願いしたい。一般就労が良いのではなく、幅広い子どもの実態を考えて、すべての子がイキイキと生活できるように。

・「就労」も重要だが、「定着」も重要である。卒業生へのアフターケアをしっかりとお願いしたい。・「技能検定」のことを就職の際にもっとPRしていくことが、進路の開拓にもつながるのでは。

5 地域への発信について

・地域に向けた情報発信では、HP を見たが、たくさんの情報を提供している。アイデアやよかった事例などの紹介、専門家向けの情報もあればよい。